



本社・工場

第70期 第2四半期決算のご報告

2021年8月21日～2022年2月20日



 福島印刷株式会社

〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地
TEL (076) 267-5111(代) FAX (076) 267-8065
URL <https://www.fuku.co.jp/>

福島印刷株式会社

証券コード 7870

株主のみなさまへ



代表取締役社長(兼会長) ^{しもはた} ^{まなぶ}
下島 学

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第70期第2四半期累計期間(2021年8月21日から2022年2月20日まで)の営業の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に対する各種政策の効果もあり、持ち直しの動きが見られるものの、依然として厳しい状況にあります。今後

も国内外の新型コロナウイルス感染症の動向、国内景気への影響など、先行き不透明な状況が続いており、予断を許さない状況にあります。

印刷業界におきましては、依然としてWeb化等による印刷需要の減少が続くなか、競争激化による受注価格下落の影響が顕著化するなど、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社は引続き最新鋭の印刷機等設備導入により生

産体制の強化を図るとともに、DP(データプリント)サービスの製品開発やサービスの充実、販売マネジメントの強化による創注や原価構造改善に積極的に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は35億64百万円(前年同四半期比7.6%減)となりました。利益面については、営業損失は55百万円(前年同四半期は51百万円の営業利益)、経常損失は55百万円(前年同四半期は62百万円の経常利益)、四半期純損失は37百万円(前年同四半期は37百万円の四半期純利益)となりました。

今後の見通しにつきましては、わが国経済は景気の回復基調が続きましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により国内外の経済環境が急速に悪化するなど、景気の先行きには予断を許さない状況が続いております。当社といたしましては、今後とも最新鋭の印刷・加工設備の導入や、「さいたまサテライト」の有効活用による生産体

制の増強、品質保証と情報セキュリティ体制の継続強化を図るとともに、独自技術によるDP(データプリント)を中心としたサービスを強化し、さらなる差別化を推進してまいります。営業面におきましては引き続き大都市圏での販売力強化とともに、「ならでは商品」に注力した提案活動の強化により、業績の向上を図る所存であります。

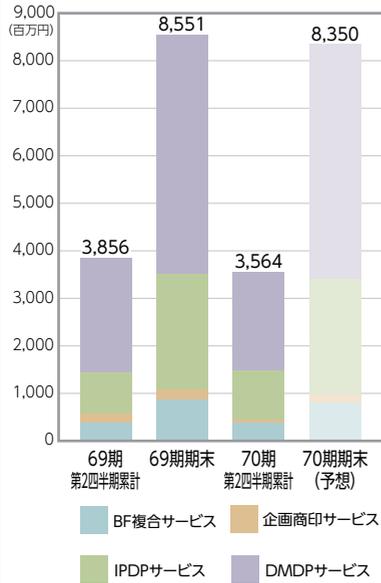
なお、通期の業績予想につきましては、売上高83億50百万円、営業利益3億13百万円、経常利益3億25百万円、当期純利益2億6百万円と見込んでおります。

また、中間配当につきましては、2022年3月25日開催の取締役会において、1株当たり6円と決議しており、期末配当とあわせて年12円を予定しております。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

製品分野別売上高

製品分野別売上高



福島印刷の

4分野による複合サービスの実現

当社は情報発信のパートナーとして、「コミュニケーション エイジェント」という新しいビジネスモデルを目指しています。お客様の情報発信は多様で、その手段、ツールにも様々な選択肢があります。そこからお客様視点に立ち多様な可能性を求めて、4つのサービス形態を整備拡張しています。

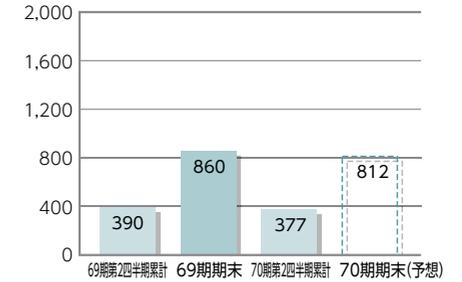
BF (ビジネスフォーム) 複合サービス

- コンピュータ用帳票
- 一般帳票
- シール・ラベル など



BF複合サービスは、コンピュータ用帳票に代表される機械加工を伴った帳票印刷分野です。Web化に伴うペーパーレス化が進み、市場全体での需要量の減少傾向が続いていることから、売上高は前年同四半期を13百万円(3.4%)下回る3億77百万円となりました。

売上高 (単位: 百万円)



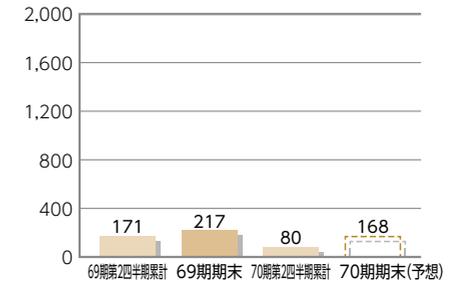
企画商印サービス

- 広告宣伝用印刷
- マニュアル印刷 など



企画商印サービスは、パンフレットやカタログに代表されるビジュアル印刷物の分野です。主要DPサービスとの相乗効果が見込めない頁・文字物印刷からの撤退影響もあり、売上高は前事業年度を90百万円(52.9%)下回る80百万円となりました。

売上高 (単位: 百万円)



IPDP (インフォメーションプロセッシング データプリント) サービス

- 請求書等発行処理受託
- 各種行政サービス印字処理
- 各種通知案内印字処理受託 など



IPDPサービスは、企業が定期的に発送する請求書や官公庁が住民に発送する各種通知書など、事務通知書類のデータプリントから、封入封緘などの後処理、メール発送までを代行するサービス分野です。コロナ禍におきましても必要となる通知物が堅調に推移し、売上高は前年同四半期を1億48百万円(16.9%)上回る10億25百万円となりました。

売上高 (単位: 百万円)



DMDP (ダイレクトメール データプリント) サービス

- ダイレクトメール
- ダイレクトメール処理受託
- データベースオンデマンド印刷 など



DMDPサービスは、お客様の顧客データベースが進化するなかで、有力な販促物を提供するサービス分野として発展しました。デジタル印刷技術を駆使したサービスは伸長したものの、大口施策の縮小や中止の影響が大きく、売上高は前事業年度を3億36百万円(13.9%)下回る20億80百万円となりました。

売上高 (単位: 百万円)



当社「ならでは」の取り組み

新「さいたまサテライト」稼働

■3社連携でデジタル印刷の量産体制を構築



1階にインクジェットプリンタ(上段)、2階に封筒加工機(下段)を設置した新「さいたまサテライト工場」フロア



株式会社広済堂ネクストと当社は、2015年6月の業務提携契約締結からシェアモデル・マネジメント^{※1}によるコスト・リスクの低減と競争力の強化を進めてきました。2021年10月より本スキームにNTT印刷株式会社^{※2}が加わり、提携先3社でのシェアモデル・マネジメント推進の第一歩として、当社関東拠点の工場「さいたまサテライト」をNTT印刷入間工場内のデジタルスマートファクトリーへ移設し、新「さいたまサテライト工場」として稼働を開始しました。

※1 シェアモデル・マネジメント:各社が保有するリソースを高度なセキュリティ体制のもと効率的に活用し合う事業最適化システム

■BCP(事業継続計画)とセキュリティ体制

生産能力が大きく向上した新「さいたまサテライト工場」では、当社主力のメーリングパックサービスのはがき仕様に加え、封書仕様も生産可能となりました。さいたまサテライトでの生産は本社工場(石川県金沢市)に比べ、首都圏の消費者向け通知物の着宅前倒しが期待できます。さらに2拠点で常時生産可能な体制を整えることで、お客様の通知物発行業務の安定供給に寄与します。

さいたまサテライトでは個人情報を取り扱うデジタル印刷機をシェア利用しますが、シェアポリシー^{※2}を運用することで安全性と効率性を実現しています。本社工場同様に生産フロア全体の入室管理や製品への接触管理を行い、シェア設備であってもお客様データへ相互アクセスできないネットワーク分離体制を導入しています。監視カメラと作業記録カメラを設置し、問題発生時のトレース体制も整えています。

※2 シェアポリシー:通信系、データ処理系、生産フロア等を時間分割し独立管理するシステムとルール体系(データの取り扱いはいずれも当社管理下にあります)



個人情報を取り扱うPCは
静脈認証を行う

セキュリティ強化の取り組み

■ISMS更新審査・QMS継続審査 合格

2022年1月にISMS(情報セキュリティ JIS Q 27001:2014)更新審査とQMS(品質 JIS Q 9001:2015)継続審査が行われ、どちらも継続取得いたしました。当社はPマークと合わせて3つの認証を取得し、継続的に審査を受けております。

今回の審査で「特に良好な点」として、マネジメントシステム教育(利用教育)の運用が挙げられました。月に一度PCや社用スマホの点検と合わせて、情報システムを利用する上で理解しておくべき規程やルールの確認テストを全従業員に実施しています。確認テストは、情報システム利用管理責任者に任命された複数名の社員によって作成されています。テスト結果を分析し理解が低い項目を次回以降の教育内容に反映させるなど、従業員一人ひとりに理解が浸透するよう工夫を凝らしています。このように従業員のセキュリティ意識向上のため、教育啓蒙活動へ真摯に取り組んでいる姿勢が評価されました。



教育問題を精査する定例ミーティングの様子

人材育成の取り組み

■『運協アワード』開催

2021年10月、管理職およびチーフ職を対象に『運協アワード2021』を開催しました。これは、1年間での優れたプロジェクトを選出し、代表者が取り組み内容を発表した後に参加者による投票と顕彰を行うというもので、今年で3回目の開催となります。

今年のアワードでは以下のテーマが最優秀賞を受賞しました。

取組最優秀賞 本夢 晃博・森吉 佑介

「MS課による技術的アプローチで
『チョコ停』『稼働速度』『再印字』の改善」

LA最優秀賞 武田 大生・井村 祥平

「コロナクーポン スキーム開発ならびに業務設計」

今年も新型コロナウイルス感染症に配慮し、東京、大阪、さいたまとはテレビ会議で中継を結びながらの開催となりました。業態転換の中で進むスキル・業務の多様化を背景に、部門をまたいだチーム活動を社員間で評価し合い、相互理解を深める貴重な機会となりました。



今年の取組賞受賞者

財務諸表

■ 四半期貸借対照表

(2022年2月20日現在)

科目	前事業年度末	当第2四半期 会計期間末
【資産の部】		
流動資産	3,017,232	2,741,080
現金及び預金	1,358,545	543,677
受取手形及び売掛金	927,941	1,385,277
電子記録債権	415,835	425,282
製品	94,072	111,741
仕掛品	111,163	138,046
原材料及び貯蔵品	87,632	88,794
その他	22,472	48,842
貸倒引当金	△431	△582
固定資産	4,633,198	4,572,477
有形固定資産	4,183,310	4,075,153
建物(純額)	1,221,504	1,205,078
機械及び装置(純額)	1,314,594	1,267,668
土地	965,106	965,106
リース資産(純額)	522,136	439,993
その他(純額)	159,968	197,307
無形固定資産	158,456	149,462
投資その他の資産	291,431	347,861
資産合計	7,650,431	7,313,558

単位:千円

科目	前事業年度末	当第2四半期 会計期間末
【負債の部】		
流動負債	1,894,741	1,607,004
買掛金	223,801	464,237
短期借入金	590,040	510,040
リース債務	166,456	149,192
未払法人税等	185,012	14,121
賞与引当金	110,238	64,170
役員賞与引当金	16,000	6,600
その他	603,192	398,642
固定負債	574,718	694,536
長期借入金	14,830	206,480
リース債務	414,127	340,337
退職給付引当金	91,180	118,142
資産除去債務	13,895	14,351
その他	40,685	15,225
負債合計	2,469,460	2,301,541
【純資産の部】		
株主資本	5,155,132	4,961,595
資本金	460,000	460,000
資本剰余金	285,200	285,200
利益剰余金	4,410,060	4,318,268
自己株式	△128	△101,873
評価・換算差額等	25,838	50,421
その他有価証券評価差額金	25,838	50,421
純資産合計	5,180,970	5,012,016
負債純資産合計	7,650,431	7,313,558

(記載金額は千円未満切捨)

■ 四半期損益計算書

(2021年8月21日から2022年2月20日まで)

単位:千円

科目	前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間
売上高	3,856,715	3,564,047
売上原価	3,131,332	2,933,889
売上総利益	725,382	630,157
販売費及び一般管理費	674,303	685,773
営業利益又は営業損失(△)	51,079	△55,615
営業外収益	17,221	5,976
受取利息	5	2
受取配当金	1,143	1,401
作業くず売却益	4,758	—
助成金収入	4,247	250
その他	7,066	4,322
営業外費用	5,588	5,590
支払利息	5,588	5,346
その他	—	244
経常利益又は経常損失(△)	62,712	△55,229
特別利益	—	321
投資有価証券売却益	—	321
特別損失	2,606	3,697
固定資産売却損	—	29
固定資産除却損	2,606	3,231
投資有価証券評価損	—	435
税引前四半期純利益又は 税引前四半期純損失(△)	60,106	△58,606
法人税、住民税及び事業税	14,700	1,000
法人税等調整額	8,046	△21,810
四半期純利益又は 四半期純損失(△)	37,360	△37,795

(記載金額は千円未満切捨)

■ 四半期キャッシュ・フロー計算書

(2021年8月21日から2022年2月20日まで)

単位:千円

科目	前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	110,643	△408,450
投資活動によるキャッシュ・フロー	△203,882	△227,001
財務活動によるキャッシュ・フロー	△34,135	△135,015
現金及び現金同等物の増減額	△127,374	△770,468
現金及び現金同等物の期首残高	911,545	1,302,145
現金及び現金同等物の 四半期末残高	784,171	531,677

(記載金額は千円未満切捨)

会社情報



(上段、左より) 木戸、福島、平野、中村、竹村
(下段、左より) 松井、下島、松谷、堺

役員 (2022年4月22日現在)

代表取締役社長(兼会長)	しも 下	はた 島	まなぶ 学	取 締 役	ふくしま 福島	しんいち 慎一郎
常 務 取 締 役	まつ 松	たに 谷	ゆたか 裕	取 締 役	き 木	まさひろ 正裕
取 締 役	まつ 松	い 井	むつ 睦	常 勤 監 査 役	ひらの 野	のぶあき 信昭
取 締 役	さかい 堺	よし 嘉	ひろ 弘	監 査 役	なか 中	しゅんすけ 俊介
				監 査 役	たけ 竹	むら 村
						ひろき 裕樹

会社の概要

商 号	福島印刷株式会社
英 文 名	FUKUSHIMA PRINTING CO.,LTD.
本 店 所 在 地	〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地 TEL (076) 267-5111(代)
設 立	昭和27年9月10日
資 本 金	4億6,000万円
従 業 員 数	458名
事 業 所	本社及び工場 金沢市佐奇森町ル6番地 東京営業部 東京都千代田区鍛冶町1丁目5番7号 江原ビルディング9F 西日本営業部 大阪市淀川区宮原5丁目1番28号 新大阪八千代ビル別館8F 富山営業所 富山市上袋708番地1 福井営業所 福井市和田東2丁目1718番地 さいたまサテライト 入間市宮寺4102-18 NTT印刷株式会社入間工場内

株式についてのご案内

事業年度 8月21日から翌年8月20日まで
 定時株主総会 11月
 基準日 定時株主総会 8月20日
 期末配当 8月20日
 中間配当 2月20日
 その他必要があるときは、予め公告して定めた日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 特別口座の 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

単元株式数 100株

上場証券取引所 名古屋証券取引所

公告方法 電子公告により当社ホームページ(<https://www.fuku.co.jp/>)に掲載いたします。

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とします。

株主優待制度 8月20日基準日現在1,000株以上の株主を対象に、自社指定の株主優待を、ご希望に応じてお選びいただけます。

2021年優待品



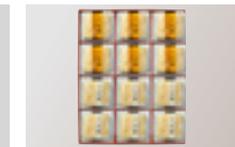
金沢五郎島金時



四十萬谷本舗 特選詰合せ



能登ワインセット



加賀麩不室屋 宝の麩詰合せ